

(款) 55教育費 (項) 20社会教育費 (目) 5社会教育総務費

◎社会教育施設の経費

吉屋信子記念館管理運営事業

生涯学習課

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

生涯学習:学ぶ意欲を持つ市民が学習することのできる機会や場が得られているまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 吉屋信子文学の業績をしのび、その文学を永久に保存し後世に伝えるとともに、市民の文化教養の向上を図るため。

効果 生涯学習施設として市民等に自由な学習の場を提供する。  
吉屋信子の文学及び業績を広く市民に伝える。

【事業の内容】

(1) 吉屋信子記念館管理運営事業

- ・ 吉屋信子記念館の維持管理を行うとともに、一般公開業務や施設利用業務などを行った。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
4,084	3,884	3,737		147

主な支出内訳

・ 吉屋信子記念館管理運営事業

記念館協議会委員報酬	0
記念館光熱水費	170
各所修繕料	492
庭園管理委託料	432
軽作業委託料	522
管理補助業務委託料	1,364
機械警備委託料	547

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 生涯-02 吉屋信子記念館管理運営事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	164	吉屋信子記念館管理運営事業				
主管課	生涯学習課		関連課				
分野名	生涯学習						
目標 (目標値)	記念館の部屋の使用率及び一般公開観覧者数の増加を図る。 使用率30% 一般公開観覧者数 6,500人						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
	利用者数	6,082人	7,110人	6,434人			
運営資源 状 況	決算値	3,737千円	3,828千円	3,974千円			
	(国・県)						
	(負担金等)	210千円	164千円	132千円			
	(一般財源)	3,527千円	3,664千円	3,842千円			
	人員配置数	0.4人	0.4人	0.4人			
	人 件 費	3,592千円	3,623千円	3,635千円			
	協働の パートナー						
事務事業 運営経費	総事業費	7,329千円	7,451千円	7,609千円			
	市民1人当 りの経費	42円	42円	43円			
	対象者1人 当りの経費	1,205円	1,048円	1,183円			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※		
変更なし						※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(25年度)
利用者数 (一般公開含む)	×	目標値	6,500人	6,700人	6,800人	6,850人	6,900人
		実績値	7,110人	6,082人			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(25年度)
利用者1人当たりの経費	×	目標値	1,200円	1,200円	1,100円	1,050円	1,000円
		実績値	1,075円	1,205円			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(25年度)
利用率	○	目標値	30%	33%	35%	40%	45%
		実績値	12.70%	17.30%			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(25年度)
開館率	○	目標値	50%	50%	50%	55%	60%
		実績値	37.70%	42.30%			
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 生涯学習施設から観覧施設への移行については要望も多いが、第一種低層住居専用地域にあるため、完全な観覧施設とすることは必ずしも適当でない。 旧居をそのまま残し、学習施設として活用しているため使い勝手が悪い。 また、施設の老朽化に伴い、修繕箇所が毎年増えてきている。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 記念館のパンフレットを増刷し、PRに努めている。 庭園や建物の整備を行い、繰り返し利用したいと思えるような環境づくりに配慮しており、俳句の会など生涯学習施設としての部屋の利用率が向上した。 新聞社、雑誌社等の取材に積極的に応じている。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 指定管理者制度への移行については、用途地域等の問題により、実現は難しいと判断している。 費用対効果の面からも、生涯学習施設としての部屋の利用率の向上を図る必要がある。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 当記念館の設置目的を踏まえながら、収入の確保や経費の節減等、効率的で有効な活用を図るために、今後もPR等に努めていく。 施設の維持管理については、現状の美観を維持しつつ、必要な修繕等を行っていく。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	今後も、集会室としての利用率の向上を図るとともに、施設の効率的な維持修繕を行うことにより、経費の増加を抑える。		
担当課長氏名:		菱田 恵子	

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	集会室としての利用率は、年々向上してきているが、費用対効果を踏まえ、利用料収入を増加させる工夫と、効率的な維持修繕等が必要と思われる。 指定管理制度への移行については、記念館の立地条件などを念頭に入れ、研究していく必要がある。		
担当部名	生涯学習部	部長名	金川 剛文